

「トヨタ生産方式」を活用した現場改善の取組について

1 ㈱柴田産業における現場改善

林業事業体においては、作業現場ごとの進捗状況を早期に把握することが課題となっています。そうした中、一戸町の㈱柴田産業では、令和2年度から当室の地域経営推進費を活用して、トヨタ自動車㈱で実施している「トヨタ生産方式」により社内の現場改善を行っているため、その内容について報告します。

2 トヨタ生産方式とは

不良品を作らない仕組みの「自動化」、必要なものを必要な時に、必要なだけ生産する、「ジャスト・イン・タイム」という二本柱の考え方に、現場作業効率を良くする「カイゼン」、問題内容を全員で共有する「問題の見える化」、問題の真因を「なぜ」と5回質問を繰り返す方法「なぜなぜ分析」、作りすぎ・手持ち・運搬・加工・在庫・動作・不良品をつくるのを徹底的に排除する「7つのムダどり」の仕組みを組み入れたものがトヨタ生産方式です。

3 これまでの取り組み

一年目に先ず始めたことは、社内倉庫2階が重機の故障した部品などが散乱しており、手持ち備品がどのくらいあるのか確認できない状況でした。

トヨタ現場改善スタッフから、倉庫や社内の2S活動（整理・整頓）を行うことのサポートがあり、2ヶ月間を掛けて倉庫にある不良部品を廃棄、備品を別の箇所へ整理したことにより、倉庫2階には大型テーブル、モニターを設置し従業員の話し合いが出来るミーティングルー

ムが出来たことや、倉庫の壁に山林部従業員の年間および月間計画・日々の作業班状況をホワイトボードに掲載し、さらに作業班ごとの素材生産量をグラフ化して、現場作業の見える化を図りました。

二年目の取り組みとして、社内連携を進めるうえでの改善点を浮き彫りにするため、作業手順についてたたき台から作成し、作業計画と実績の乖離について話し合いを行いました。

話し合いの結果、山林部における素材生産量と製材部で加工している製材量で調整が必要であることがわかったことから、現在、山林部の更なる情報共有の構築・見える化の現場改善を行っております。

4 活動の成果

㈱柴田産業がトヨタ式生産方式を導入したことで、一長一短がありますが、社内のムダの発見や社員自ら清掃すること、積極的に改善に向けた意見が出るなど自主性が育っていると思います。



ミーティングルームの状況